



想像する力

副校長 松本 仁治

先日の朝会で、校長と学校用務員が子供たちに向けて、クイズを交えながらごみの分別の話をしました。分別を誤ると、学校用務員や焼却工場の方々の作業に支障をきたしたり、環境に悪影響を及ぼしたりしてしまうことを確認したかったからです。

この朝会の結びに、校長が「ごみを捨てるときには、その作業にかかわる方々や環境への影響を想像することが大切」ということが主旨の話をしました。それを聞いて私は、この「想像する」力は、まさに本校が育成を目指している3つの資質・能力を発揮するために欠かせない力だと考えました。

本校では、中期学校経営方針の中で、主に以下の3つ(①～③)の資質・能力を育成しようと努めています。(常時、職員が見られるように、職員室の前方に掲示しています。)

～倉田小学校が育成を目指す資質・能力～

(主体的な学びの姿)

①多様な視点をもとに自己選択、自己決定しながら、自分の考えを適切な言葉で表現する力

(対話的な学びの姿)

②自他を尊重し、他者と協働しながら、集団の中で役割を果たす力

(深い学びの姿)

③思いや願いの実現のために、粘り強く探究する力

どの力を発揮するにも、「想像する」力は必要不可欠です。①では、語彙を増やしつつ、「どう言えば伝わるだろう」「相手はどう受け取るだろう」と想像することがとても大切です。また②で言えば、他者の気持ちを読み取ったり、自分を客観的に見つめたりすること。つまり他者と自分の内面を想像することが、適切な行動をとることにつながります。さらに③では、答えが一つではない問いに向き合うとき、想像力は、自分だけの考えをつくり出すための原動力になるはずです。

これからも、子供たち一人ひとりが豊かな想像力を働かせ、3つの資質・能力を育ていけるよう、学校全体で支えてまいります。地域の皆様、保護者の皆様からのご支援も、引き続きよろしくお願いいたします。